淮教授 出川 も

、筑波大学山岳科学センタ

〒 386-2204 長野県上田市菅平高原 1278-294 ·菅平高原実験所

第100号

2023年(令和5年)12月10日(日)発行©菅平高原実験所 https://www.msc.tsukuba.ac.jp/ ikimono\_srs@un.tsukuba.ac.jp

ikimono\_srs@un.tsukuba.ac.jp

> 2023年4月28日にお亡くなりになられました。 当実験所に大きな足跡を残された林一六先生が、 享年83歳で 惜しくも

され、

わられました。

先生は退職後も、

市民団体「上田地球を楽しむ会」を主宰

図2:2007年8月、

歩く林先生(手前)

史博物館の建設を陳情しているのだがなかなか実現しない。

箱ができないなら足で歩いて周って実質的に博物館

のだと気づいたんだよ」と、

経緯を伺

市民の皆さんと活発に活動されました。

「市や県に自然

揃えようという実験所フィ を継続し、 農家の肥料用にと始まったススキの刈り取りによる草原の維持 た今、そこには見事なブナ林が育まれています 相とされたブナの植栽試験地を設けられました。 を研究なさった先生は、実験所構内の樹木園の一角に当地の極 平で植物生態学の研究教育に力を注がれました。 所に赴任されて以来、2003年の定年退職まで40年近く、 林先生は1965年に当時の東京教育大学菅平高原生物実験 草原から極相林に至る様々な植生遷移段階を一通り ルド の整備方針の策定にも深く携 (図3)。また、 特に植生遷移 50年余りを経 菅



高校生対象の公開講座で受講生と

図1:2006年12月、実験所で行われた研究集会で、 地内の植生遷移について発表される林先生

林研究室卒業生、大坪二郎氏)林一六先生、喜寿のお祝いにて

一部では十数年前から新

ました。

ました。インターネットの無い当時、

図書室は実

の現在、

ŋ

そこで学問の種子を播きました。それから75年後

学問は再び物質的実利が優先される時代

センターはいま再び創設

伸びやかな学問の自

実業家が研究所の建物を寄付し、

科学者の情熱が

ては冬の時代でした。その時代にあって、 はすべてにわたって軍事が優先され、

験所の頭脳だと先生はことさら大切になさってい

ある日、面白いアイデアを思いついたので皆講

ものであります。」

由とアカデミズムの灯を守りつづけることを祈る

の時代の精神にたちかえり、 となるように感じます。 離席した折に、厳しくお叱りを受けたこともあ 書籍や雑誌をだらしなく散らかしたまま図書室を 理に追われ、滞在中にデータ解析も完了せねばな

昼は猛烈なフィールドワーク、

夜はデータ整

門前の小僧よろしく先生方の豊富な知識に圧倒さ

三先生が集うと自然に学問の話題で盛り上がり、 築されているかのようでした。お茶の時間など、

らずハードな実習として恐れられていました。

はアカデミックな気風が漂っていました。

れながら耳を傾けるのですが、

日頃から実験所に

ので、

引用します

られた先生のお人柄がよく表れていると思います せ下さった原稿には、学問に真摯に向き合ってこ

異分野

「このセンター

(※) が創設された1930年代

学問にとっ

篤志の

の三研究室が合同で行う菅平ゼミは今も続く菅平

のユニークな伝統です。

笑顔を絶やさぬ穏やかな林先生でしたが、

私が

まだ広くは普及していなかったパソコンをフ

体系的な世界観に引き込まれる名講義でした。

一方、先生の菅平での植物生態学の野外実習

で説明できるといった壮大な結論に至る先生の

当され、3人の先生方がバランスよく生態系を構

の林先生ならではの名言だったと思い出します。

2009年の実験所75周年の際に林先生のお寄

とは良いと言い切れる、

真に自由な精神をお持ち

既成概念や常識にとらわれず、

本当に良いこ

先生の講義は理詰めで話が展開し、

快で楽しいものでした。

論を積み重ねて、

全世界の植生は7つの群落

は、林先生が植物を、

町田龍一郎先生が動物を担

当時、

実験所で

先生の研究室に進んだのですが、

4年生になり私は菅平の菌類学の恩師徳増征二

誰もが論文の本数を稼げと躍起になっている昨

あっけに取られたこともありました。

用語の定義から始ま

論理がとても

生の頃、つくばキャンパスでの集中講義でした。

携だとここで教わりました。

電話や自動車以上に、

パソコンこそ必

論文だけを厳選して世に出

しなさい

とお

しゃられ、

風穴サミット開催にまで至った風穴調査等、

精力的に活躍さ

れてこられまし

と行動力をバネに、薪炭林の管理とゼーベック発電の実験や、

誰にでも率直に向き合われる林先生のお人柄を皆さんが心か たことがあります。会には、年齢もお仕事も様々な方が集われ の活動をすればよい

しかし、

ら慕っておられる様子でした。そうして飽くことなき好奇心

レ 私が林先生に初めてお会い

したのは大学3年

図3:2020年5月、ブナの新緑が美しい樹木園。 たな実生も育っており、林先生は喜んでおられた。

明して下さいました。 的低温で上田での生育が説明できるのではと着想 植物が隔離分布しているが、 た。北海道と上田市の断崖にモイワナズナという 義室に集まってくれと先生から声がかかりまし が、「日夜、 したのだと、 また、ふらりと学生部屋に顔を出された林先生 黒板に図示されながら興奮気味に説 断熱膨張による局所

論文を書き過ぎるな! てに目を通すわけにもいかず嘆かわしい。君たち、 湯水のように論文が乱造されてす よく吟味して本当によい

> 先生有難うございました。 てお答えできるよう今後も努めてまいります。 日もしっかりと受け継いでおります、 る思いがします。 信念を貫かれる林先生からの激励に勇気づけられ いたします。 この文章を読む度に、 実験所はこの良き気風と志を今 にこやかな笑顔ながらも 心よりご冥福をお祈 と胸を張っ

※当時の実験所の名称、 菅平高原実験センタ のこと

## 4 ツ þ 情 報

## たちと大明神の滝」 冬の自然観察会「冬の生き物

- (観察会は2時間程度) 令和6年2月3日 9時30分~12
- 定員 30名 (事前申込)
- 参加費 (保険代)
- 菅平高原実験所
- ば防寒着と兼用可)、ストック(あれば) 服装・防寒着上下、防寒靴 防寒帽子、 手袋、 雨具(防水性があれ (スノーシュー不
- ① 氏 名、 みの場合は、全員の氏名と住所を記載してく さい (先着順)。数名のグループでお申し込 申し込み レスを明記のうえ、メールでお申し込みくだ ②住所、 1月23日(火)9時~26日(金)に、 ③電話番号、 ④メールアド
- 参加の可否について数日以内にご返信します。 ます(中止の場合は前日連絡)。 事前に悪天候が予想される場合は中止となり
- 筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所 **数**0268·74·2002(平日9~17時) 🛚 ikimono\_srs@un.tsukuba.ac.jp

問

## 菅平生き物標本展が開催される

元宿泊室と元食堂を使い、植物、 国の登録有形文化財「大明神寮」では畳敷きの もらおうと、 めての特別企画展「菅平生き物標本展」を開催 大明神寮紹介などの展示を行いました。 しました。会場は敷地内の2か所で、そのうち 多くの人にさまざまな生物の標本に親しんで 11月3日、 菅平高原実験所では初 昆虫、 菌類、







クショップが行われました。 の仕上げや昆虫の分類、 もう一つの会場の実験研究棟では、植物標本 顕微鏡観察などのワ

ました。 受講生の方々も、 を行いました。また、ナチュラリスト基礎講座 者に展示物の解説やワークショップのサポー (ナチュラリスト) が各コー 準備にご尽力いただきました。当日もメンバー 計画段階から参加し、展示物やワー タッフからなる「菅平ナチュラリスト 実施にあたっては、実験所ボランティアス 当日の運営にご協力いただき -に立ち、 クショップ の会」

室で、 ながら普段できない体験をしていました。 は、明るい陽射しの差し込むこの日限りの展示 県内外から約20人が訪れました。 一緒になって、ナチュラリストと教員に教わり した。ワークショップ会場では、 この日は快晴で季節外れの暖かさに恵まれ、 菅平高原実験所では今回得られた経験を大切 来場者はゆったりと見学を楽しんでいま 大人も子供も 展示会場で

なぐイベントを引き続き ています。 企画していきたいと考え

にし、大学と地域とをつ

詳しい報告は



こちらから▼

次号は2月発行予定です

**>** 

東郷堂様にご協力いただいております本通信の印刷・配布は Facebook https://www.facebook.com/sangaku.center YouTube https://www.youtube.com/c/TsukubaMSC